



子どもガイド養成講座③ ～ 3・4年生は音楽劇に生かします ～

今回も、「菊陽町文化財ボランティアガイドの会」の上村様、矢野様に講師としておいでいただきました。3年生は、「井手を掘って馬場楠堰から水を取り入れるお話」、4年生は、「鼻ぐり井手の昔の地図や作った時のお話」について学習をしました。上村様からは、「いかながし」「土砂ばき」のお話がありました。加藤清正公は、魚やカニの通り道として、堰に「いかながし」を、また、竹や木が堆積しないように「土砂ばき」を作ったとのこと。上村様お手製の模型を興味深そうに子供たちは覗き込んでいました。矢野様からは、水を安定的に供給するため、また、洪水を防ぐための「分水路」「吐き」のしくみについて詳しくお話がありました。いずれも、普段はなかなか見ることができない場所ではありますが、子供たちの学習に対する興味を一層高めていたように思います。次回は9月9日（金）に予定しています。ぜひ、ご家庭でもお話を聞かれてください。（左：4年生にお話をされる矢野様、右：模型を使って3年生に説明をされる上村様）



前途洋々

菊陽町教育委員会 学校教育アドバイザー 二殿先生からのお話 ～ 南アフリカ滞在記から平和な社会について考える ～

いつも、学習指導その他でたいへんお世話になっている二殿先生ですが、毎年6年生を対象に、南アフリカについてお話をいただいています。二殿先生は、馬場楠にお住まいで、子供たちにとっては本校の大先輩でもあります。先生は、平成25年から27年まで、南アフリカ共和国のヨハネスブルグ日本人学校で、校長先生として勤務されていました。日本とは全く違う環境の中、平和や安全、人権について考えざるをえないことが山のようにおありだったとのこと。今回、6年生は、2日（金）の2時間目にお話をいただきました。日本とは治安の状況が全く違い、家や学校の周囲には、強盗や不審者対策として8000ボルトの電流が流れる、2、3mの高さの塀が張り巡らされていたとか。また、貧しい少年とのやり取りの中で、夢は何かとお尋ねになったところ、「今日のご飯の心配をしなくていいこと。お腹いっぱい食べられること」と答えたのだそうです。続けて、「2番目の夢は？」と聞かれたところ、「明日のごはんの心配をしなくていいこと」と返事が来たそうです。二殿先生は、6年生の子供たちに「しっかり勉強をしてほしい、仲間を大切にしてほしい、ごはんは残さず食べてほしい」とお話になりました。また、「夢」を持ち、一度きりの人生、その夢に向かってはばたいてほしいという大きなメッセージをいただきました。エネルギッシュな二殿先生の姿にはいつも刺激を受けています！本当にありがとうございました。



25日に鑑賞する新作狂言「熊本三獣士」の作・演出・プロデューサー、 山川里海さんが南小においでになりました！

8月31日（水）の午後、山川さん（写真右）が本校にお見えになり、狂言の魅力を語っていかれました。今回の演目は、加藤清正公ゆかりのもので、「鼻ぐり井手」が舞台として登場します。後半に準備されている古典も含め、子供たちが楽しめる内容になっているとのことでした。山川さんは、加藤清正公が3歳から11歳まで暮らした愛知県津島市のご出身。地域史・伝承を生かした新作狂言の創作脚本を全国で手がけていらっしゃいます。南小の子供たち全員が鑑賞できることをたいへん喜んでおられました。あらすじは、「江戸中期に起きた不可思議な事件。清正公さんの鼻ぐり井手が壊されてる???熊本の守護獣たちが駆けつけると、城には結界が張られ、怪しげな殿様が現れた。ニセモノ殿様と三獣士の妖術対決はいかに!？」楽しみです！

